**日本と中国における礼儀教育の特徴と具体的な指導**

**―文化的、歴史的な比較研究を中心として―**

発表者：カクロ

指導先生：押谷由夫先生

**Ⅰ　問題の所在（研究の動機）**

近年、中国は競争社会に応じた様々な改革を行い、大きな成果をあげている。2009年世界学力テスト「学習到達度調査」の結果は、すべての分野で中国上海が一位になったのである。しかし、中国では、大きな問題も持っている。それは、道徳観の確立と経済の発展の歩調が不一致ということである。道徳教育の面の欠如がますます目立ってきて、特に、社会全体を見ると、中華民族のよき伝統である「礼儀」が意識されていない。そのため、様々な社会問題が起こって、中国の道徳心が世界中で疑われている。

　　2010年、中国教育部によって『中小学校文明礼儀教育指導綱要』が公布された。学生が基本的な礼儀、儀礼規範を身につけ、学習や生活実践の中で、基本的な衛生、マナー、公衆道徳を重んじる良い習慣を養成することが強調された。しかし、多くの学校の方針は、まだ試験結果や成績順位を重視する「応試教育」（試験に応じる教育）に強く影響されている。そのため、この『中小学校文明礼儀教育指導綱要』がまだ徹底的に貫いていない。また、子どもたちは道徳の授業で学んだことを実際の生活でどのように行えば良いのか分からないという問題が従来からある。

一方、日本人の礼儀正しさは昔から外国人に注目されていた。日本では「礼儀正しさ、他人の感情についての思いやり」が「恵まれた階級の人々ばかりでなく、最も貧しい人々も持っている特質である」とされる。

戦後数十年を経ち、日本は産業、経済、社会構造など、あらゆる面に大きな改革を遂げて、国全体の経済水準が世界のトップレベルに立っている。しかし、日本では道徳観が依然として確立されているように思われる。日本の学校における道徳教育を見ると、経済が大きく発展した時に、道徳の時間が設置された。それ以後、

文部科学省による『学習指導要領』の改訂などを通し、道徳教育の充実を図り、自分の生き方について考え、「未来を拓く主体性のある日本人」を育てることを目指している。特に、今回の東日本大震災で見せた日本人の礼儀正しい姿によって、日本の道徳教育の優れている所が更に世界中に注目されている。

なぜ同じく儒教思想に恵まれて、同じく9年義務教育を行うアジア国がこんなに大きな差があるのか。そこで、中国と日本で行われる道徳教育の中で礼儀に関する部分について分析したい。日本の礼儀教育の取り組みと中国の現状を比較しながら、中国の礼儀教育の問題点を改善し、日中両国の子ども及び社会がより一層道徳性を持つことができるようになるにはどうすればよいのかを分析しようと思っている。

**Ⅱ　研究の目的**

１、中国と日本における礼儀教育の歴史と変化を明らかにする。

２、中国と日本の学校における道徳教育の中での礼儀教育について、教育課程を分析することから明らかにする。

３、中国と日本の小学生の礼儀に対する意識について実態を明らかにする。

４、実態調査を通して中国と日本の礼儀教育の異同を比較し、問題点について道徳教育の視点から分析し、道徳教育と礼儀教育を関連付けた指導のあり方について論究する。

５、上記の論究を元に、道徳教育と関わらせた礼儀教育のあり方について具体的な提案を行う。特に、日本の礼儀教育の取り組みと中国の現状を比較しながら中国の礼儀教育の問題点の改善について具体的に提案する。

**Ⅲ　研究の方法**

1、先行研究（文献研究）

2、現地調査（参与調査、インタビュー調査とアンケート調査）

**Ⅳ　本論**

**第一章　中国と日本における礼儀教育の歴史と今日における礼儀教育の重要性**

**第一節　礼儀教育の歴史**

1　中国の場合

（1）夏、商、西周:　礼儀の形成時期の礼儀教育

（2）春秋戦国:　礼儀の変革時期の礼儀教育

（3)秦から清まで:　礼儀の強化時期の礼儀教育

2　日本の場合

（1)江戸時代

1）庶民の礼儀教育

　 ●　寺子屋

●　おしょさん

２）貴族の礼儀教育

●藩校

●昌平坂学問校

（2)日本の礼儀教育と中国文化の関係

**第二節　今日における礼儀教育の重要性**

1　中国の場合

（1)文化大革命による中国の礼儀教育への破壊

（2）素質教育の提唱

（3）『小学生日常行為規範』

（４）『中小学校文明礼儀教育指導綱要』の公布

2　日本の場合

（１）核家族化、少子化によるしつけの低下

（２）道徳教育の重視

（３）生徒手帳

**第二章　中国と日本の学校の教育課程の中での礼儀教育の内容及び実際の指導**

**第一節　指導要領**

　１中国:　教育大綱

　２日本:　学習指導要領

**第二節　課程の内容**

1中国:　『品徳と生活』「『品徳と社会』

2日本:　道徳の時間、『心のノート』

**第三節　授業外活動**

　1　中国：　文明礼貌月,　など

　2　日本：　体験の中で道徳性を学ぶ

**第四節　実際の指導**

**第三章　中国と日本の小学生の礼儀に対する意識の実態とその考察**

（礼儀意識の実態）

（実践の礼儀行動の実態）

（学生が指導の中での実態）

（問題点及び課題の把握）

（実態の背景にあるものについての調査）

**第四章　中国と日本の文化的、歴史的背景をふまえた礼儀教育の提案**

（歴史との関連）

（実生活との関連、運用）

（日常生活の中で習慣の養成）

**第五章　まとめと今後の課題**

**Ⅴ　研究の内容**

**一、中国における礼儀について**

中国では、礼についていくつもの起源説があるが、その中でも、「礼は道理から生まれ、世俗に始まった」（生于理，起于俗）という説は通説となっている。こ**れは古人が礼儀について深く探求した結果である。道理とは、世間の物事のそうあるべきだという筋道を示すものである。人間は生きていくために、身の回りの環境や生存条件に応じなければならない。その中で、人間は自然的必然性や倫理的必然性、いわゆる道理に応じて、それらと符合する規範を作った。その規範こそが、礼である。物事の礼は日常生活で実現されて広がるので、礼は世俗に始まったと言われる。**

**この説をみると、「礼」は「儀」の先にあるものであり、「礼」という道徳規範から、「儀」という具体的な表現の形ができている。礼儀は部落群居の形成とともに始まって、更に社会の形式や国家制度の変化にしたがって変化し、社会生活の発展に伴いながらより良いものへと発展している。**

**二、中国の礼儀教育の歴史**

奴隷社会に入って、支配階級は自分の権力を強固にするために、原始の宗教礼儀を発展させて、奴隷社会の政治需要と符合させようとした。礼儀が統治階層の象徴となっていたのもこの時期からだと考えられる。こうして、中国初めての国家礼儀制度の雛形が形成されたのである。

夏、商の時代には、初めての官学（政府側の学校）が設立された。ここでは、祈禱師また政府の官員が担当教師となって、貴族の子どもを対象に、文武、礼儀、楽、舞を主とした学習を行った。

西周の時期に、政府が国学と郷学を設置した。国学は奴隷主の子のために都の中で設立された教育機構で、大学と小学を分けていた。大学の内容は礼、楽、射、書であり、小学の内容は六つの芸（礼、楽、射、御、書、数）[[1]](#footnote-2)の基礎知識を学ぶことであった。郷学は郊外で設立された平民の教育機構で、その内容は国学における小学の内容に類似していた。

この時期に、礼儀は極めて重要な学習内容となり、生徒に道徳観念や生活習慣を育成させる役割を担っていた。礼儀教育の目的は君臣の儀や長幼の序などの道徳観念を持つだけでなく、日常生活においても礼儀に則った行動ができるよう訓練がなされていた。礼儀を授けることと訓練する教育手段は、中国古代社会に強く影響を与え、礼儀を重んじる社会になった極めて重要な要因の一つだったと考えられる。

乱戦の世となった春秋戦国時代には、諸侯が各自の政権下において各自の官学を設立した。そのため、教育は官僚から民間に発展し始めた。この時期の学術界は、「百家争鳴」[[2]](#footnote-3)の局面が形成された。儒教を代表として、諸子百家は礼儀を研究し、発展していた。孔子は「礼を学ばないと、社会に立てない」（『詩経』不学礼、無以立）と考え、礼儀に関する教養を重視し、礼の規範で自分の行為を抑えて、礼儀に従わないことをしないように自覚する（『論語』非礼勿視、非礼勿聴、非礼勿言、非礼勿動）と強調した。また、子どもの頃に身につけた習慣はもって生まれた天性に等しい（『顔氏家訓』少成若天性、習慣成自然）と考え、児童教育の中での習慣養成の重要性を強調した。

紀元前221年、秦始皇が六つの国を統一し、中国初の中央集権の封建王朝を築いた。西漢初期に、朝儀の礼（文武百官が朝廷に列を組んで立ち並ぶ形となり皇帝に礼をする）を制定し、礼に関する儀式を発展させた。西漢の思想家の藍仲舒は儒教の礼儀理論を「三綱五常」を総括した。「三綱」とは、臣が君に従い、子どもが父親に従い、妻が夫に従うことである。「五常」とは、仁（仁愛）、義（忠義）、礼（礼儀）、智（知恵）、信（信義）である。

また、古代の中国は児童期の礼儀教育を非常に重視していた。礼儀教育の具体的な内容は、南宋の大学者の朱熹の『童蒙須知』を見てみると、主に外見や姿態、話し方、行動の表現などについて以下のように示している。

１．姿態礼儀

姿態とは人の外見であり、人の精神状態を表す重要な役割がある。姿態は生活の態度、思想修養や道徳の品格などとの関係が密接である。容貌、外見は他人に見せる体の状態や飾りなど、たとえば、髪の長さ、顔の清潔さ、帽子や帽子の飾り（古代の習慣）、個人の衛生状態などのことである。姿かたちとは、人が立ち、歩き、座るなどの姿勢である。古人のことわざによると、人の道徳がよければ、よい評判が広がり、同じように、物腰がきちんとしていれば、外見もよくなる。さっぱりして上品な身のこなしは人の内面の素質を表す、とされている。

２．話し方

次に話し方についてである。一つ目は、人と話すときに、事実に基づいて話すべきである。信用できることを話し、勝手によしあしを論評して事実をゆがめることを言わない。二つ目は、なるべく余計なことは言わない。口数が多いと失言を招くので、注意するべきである。最後に、話すときに汚い言葉は使わない。さらに、親や年上の人に注意されたら、反発などをしないで黙って聞くのが礼儀である。もし親や年上の話に誤りがあっても、弁解や口答えは禁止である。その場では誤りに触れず、後で詳しく説明するのが礼儀にふさわしいやり方である。

３．行動の表現

日常の行動にも詳細な礼儀規範がある。古人はこれについてたくさんの論述や伝統を残している。児童の行動に関する礼儀、たとえば立ち方、座り方、歩き方、拱手の礼などが詳しく規定されており、これに従わなければならない。古人は端正な行為を特に重視し、行為がきちんと整っていれば、品行が正しくなれると考えた。女子の礼儀についても、上述したほかに、家事、親孝行、夫の世話、子どもの教育など、いろいろな内容がある。

　このような礼儀がその後、中国で尊重されてきたが、近代になってから、捨てられた部分がたくさんある。今日、中国政府が礼儀の欠如を反省し、道徳教育における様々な改革をした。

**三、今日の礼儀教育の重要性**

**―『中小学校文明礼儀教育指導綱要』―**

中小学校の文明礼儀教育の推進は、中小学生の思想道徳の修養を高め、社会主義和諧社会[[3]](#endnote-2)を築き、そして全民族の文明素質と国家の文化の実力を強めることに重要な意義がある。中小学校の文明礼儀教育をよりいっそう推し進めるために、2010年に本綱要が制定された。

その指導思想は、科学的発展観[[4]](#endnote-3)を徹底的に貫き、社会主義化核心価値体系[[5]](#endnote-4)の充実をはかり、学校教育の全段階に導入し、中華民族の優良伝統の美徳と社会主義道徳を発揚する。また、世界の優れた文明成果を吸収しながら、教学規律と学生の心身の発達にしたがって、中小学生の思想道徳の素質と文明礼儀素質を全面的に向上させる。そして、子どもたちを幸せに成長させるための土台づくりを担っているのである。

この綱要は、科学性、系統性、段階性と実践性を重んじ、子どもの発達段階によって礼儀教育の内容と体系を決定している。主な内容は基本的な話し方や物腰、服装などの個人礼儀と家庭、学校、公共の場所などにおける社会生活の交際礼儀を含めている。

その中で、小学校の目標は、良好な生活習慣を育成することに重点を置きながら、子どもに基本的な礼儀、儀礼規範を身につけさせる。そして、学習や生活実践の中で、文明（思想、道徳面の進歩的な状態）、衛生、マナー、公衆道徳を重んじる良好な習慣を育むことが重要なのであると述べている。

**今後の予定**

今まで中国の礼儀教育の歴史について文献研究をしてきた。今後は、研究した内容を更に充実させながら、日本の礼儀教育の歴史について文献研究をし、比較、分析をしようと思っている。また、現在の中国の小学生の礼儀に対する意識の実態を明らかにするために、今年の２月２７日に、中国山西省原平市の小学校でアンケート調査と現地調査を行う予定である。

**主な参考文献**

１．艾建玲『旅游礼儀教程』，湖南大学出版社，2006

２．井上雅夫　『日本人の忘れもの』，日本教文社，2000

３．張華　『浅談中国古代幼児礼儀教育』，中外教育研究，2010

４．『童蒙須知』　（百度文庫

<http://wenku.baidu.com/view/5a49f423192e45361066f575.html>）

５．楼宇烈　『中国の品格』，南海出版会社，2009

1. 礼：礼儀；　楽：音楽；　射：矢を射る；　御：馬車や馬を御する；　書：書道；　数：数学 [↑](#footnote-ref-2)
2. 百家争鳴：多くの学者や専門家が何の遠慮もなく、自由に自説を発表し、活発に論争し合うこと。 [↑](#footnote-ref-3)
3. 社会主義和諧社会：民主と法治、公平と正義、信義と友愛、活力がみなぎって、安定した秩序を保たれ、人間と自然が調和の取れた社会。 [↑](#endnote-ref-2)
4. 科学発展観：従来の経済成長のみを追求してきた姿勢を改め、資源節約や環境保護、貧富や地域間の格差是正などを図ることで、調和のとれた社会を目指す思想。 [↑](#endnote-ref-3)
5. 社会主義化核心価値体系：マルクス主義の指導的地位を堅持し、中国の特色ある社会主義共同理想を定め、愛国主義を核心とする民族精神と改革創新を核心とする時代精神を大いに発揚し、社会主義栄辱観を樹立すること。 [↑](#endnote-ref-4)